

## 菊花賞

今年の菊花賞は勝ち馬がドウラメンテ産駒。  
2-5 着馬はディープインパクトと欧州血統の組み合わせ。

本命はドウラドーレス。

父はタイトルホルダーも出したドウラメンテ。  
母はディープインパクトの近親。祖母はディープインパクトの妹。

今年の菊花賞は、昨年よりも直線で伸びやすい馬場。  
加えてタイトルホルダー級の逃げ馬はいないはずなので、  
昨年以上に末脚の伸びが重要なレースになるのも向きます。

母父ハービンジャーは当レースに相性の良い欧州型ノーザンダンサー系。  
3歳秋以降に本格化しやすい血統。  
舞台設定、成長曲線ともに菊花賞にピッタリ。

アスクビクターモアは父がディープインパクト。

母父は欧州型のレインボウクエスト。  
凱旋門賞勝ち馬で産駒のソーマレズも同レースを優勝。  
日本での産駒にサクラローレル。  
今よりも馬場がタフだった当時でも G1 勝利はすべて芝 2500m 以上。  
重賞勝利は 4 歳(当時 5 歳)だったように、遅咲きのステイヤー血統。

アスクビクターの本質は欧州的な馬力が問われる長距離レース。  
同じく欧州色が強いタイトルホルダー同様、馬力、体力勝負の競馬に  
磨きがかかるのもこれから。

先に述べた傾向から考えれば、ダービーよりも阪神菊花賞向きの母と配合された  
馬。極端に前不利な展開にさえならなければ馬券圏内に走る可能性は高いです。

セレシオンはハーツクライ産駒。

京都の菊花賞は向かない産駒も多かったのですが。今回は阪神芝 3000m。  
ハーツクライ産駒は同コース重賞で 6 頭が連対。阪神の菊花賞なら。  
友道厩舎は菊花賞が得意で管理馬が 2 桁人気で複数馬券に。  
ユーキャンスマイル、ポポカテペトル同様、夏の新潟芝 2200m からのステップ。

ジャスティンパレスはディーブ×欧州型。

兄は今年と同コース重賞で 2 着のアイアンバローズ。  
上昇中のディーブ産駒には乗るべき。